

様式 3 和歌山リハビリテーション専門職大学
教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
理学療法学専攻課程	8人	0人	2人	1人	11人	6人	6人	0人	43人	15.2人	
計	8人	0人	2人	1人	11人	6人	6人	0人	43人	－	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1
自己評価	評価内容	判定
☐	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの運動状況

分野 (基礎・専門基礎・専門)	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
基礎科目	科学的思考の基礎	心理学	15	木村 正徳	兼任
		生物学	15	廣瀬 正紀	兼任
		物理学	8	有本 収	兼任
		統計学	15	中川 優	講師・専任
		健康科学	15	増田 美智子	兼任
		プログラミング	15	中川 優	講師・専任
		I oT入門	15	中川 優	講師・専任
		哲学	8	西内 亮平	兼任
	人間と生活	生命倫理	15	西内 亮平	兼任
		健康とスポーツ	15	新宅 幸憲	教授・専任
		教育学Ⅰ	15	立野 淑郎	兼任
		教育学Ⅱ	15	立野 淑郎	兼任
		老年学	8	井口 知也/巽 絵理/ 大松 慶子	兼任/教授・専任/准教授・専任
		社会学	8	立野 淑郎	兼任
	社会の理解	法学	8	和田 隆夫	兼任
		情報処理Ⅰ	15	中川 優	講師・専任
		情報処理Ⅱ	15	中川 優	講師・専任
		英語Ⅰ	15	松田 デイビッド	兼任
		英語Ⅱ	15	松田 デイビッド	兼任
		人体構造学Ⅰ（骨・筋系）	15	盛口 敬一	教授・専任
		人体構造学Ⅱ（脈管・内臓系）	15	盛口 敬一	教授・専任
		人体構造学Ⅲ（神経系）	15	盛口 敬一	教授・専任

職業専門科目（専攻共通）	人体の構造と機能及び心身の発達	人体構造学実習	15	盛口 敬一	教授・専任
		体表解剖学演習	15	松井 有史	講師・専任
		人体機能学Ⅰ	15	渡邊 和子	教授・専任
		人体機能学Ⅱ	15	渡邊 和子	教授・専任
		人体機能学実習	15	渡邊 和子	教授・専任
		運動学Ⅰ	15	畑山 大輔	兼任
		運動学Ⅱ	15	畑山 大輔	兼任
		運動学実習	15	新宅 幸憲	教授・専任
		人間発達学	15	新宅 幸憲	教授・専任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	15	京 雪楓	教授・専任
		内科学	15	北端 宏規/樽谷 玲/山野 貴司	兼任
		神経内科学Ⅰ	15	京 雪楓	教授・専任
		神経内科学Ⅱ	15	京 雪楓/阪田 麻友美	教授・専任/兼任
		整形外科Ⅰ	15	江幡 正悟/玉置 康之/田中 康之/田中 慶尚/古川 剛	兼任
		整形外科Ⅱ	15	佐々木 貴英/玉置 康之/田中 康之/田中 慶尚/古川 剛	兼任
		小児科学	15	末永 智浩/杉本 卓也/土橋 智弥/前田 真帆/市川 貴之/平山 健太郎/井中 将吾/川本 大樹	兼任
		臨床心理学	15	小澤 裕子	兼任
		精神医学	15	志波 充	兼任
		臨床薬理学	8	野口 雅史	兼任
		臨床栄養学	8	西出 充徳	兼任
		予防医学	15	巽 絵理	教授・専任
		救急援助論	15	島 幸宏	兼任
		臨床・画像診断学	15	河西 紀秀/鈴木 俊宏	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	8	松井 有史	講師・専任
		社会福祉学	15	西田 紀子	兼任
		チーム医療論	15	鍵井 一浩	教授・専任
		地域包括ケア論	15	鍵井 一浩/西尾 恵	教授・専任/講師・専任
		トータルヘルスプロモーション	15	増田 美智子/松永 秀俊	兼任/教授・専任
職業専門科目（理学療法学専攻）	基礎理学療法学	理学療法概論	15	松永 秀俊	教授・専任
		理学療法研究論	15	松永 秀俊	教授・専任
		基礎理学療法学Ⅰ□	15	松永 秀俊/禹 炫在	教授・専任/助教・専任
		基礎理学療法学Ⅱ	15	松井 有史	講師・専任
		臨床理学療法学	15	吉崎 邦夫	教授・専任
		理学療法臨床診断学	15	吉崎 邦夫	教授・専任
	理学療法管理学	医療関連法規	15	和田 隆夫	兼任
		理学療法管理学	15	吉崎 邦夫	教授・専任
	理学療法評価学	理学療法評価学総論Ⅰ	15	吉崎 邦夫	教授・専任
		理学療法評価学総論Ⅱ	15	吉崎 邦夫	教授・専任
		身体機能評価学実習Ⅰ	15	松永 秀俊	教授・専任
		身体機能評価学実習Ⅱ	15	松永 秀俊	教授・専任
		理学療法評価学実習Ⅰ	15	松井 有史	講師・専任
		理学療法評価学実習Ⅱ	15	禹 炫在/福井 直樹	助教・専任
		応用評価学演習	15	石橋 誠隆	兼任
	理学療法治療法	運動療法学	15	吉崎 邦夫	教授・専任
		運動療法学実習Ⅰ	15	松井 有史	講師・専任
		運動療法学実習Ⅱ	15	福井 直樹	助教・専任
		物理療法学実習	15	福井 直樹	助教・専任
		義肢装具学Ⅰ	15	福井 信佳	兼任
		義肢装具学Ⅱ	15	中山 淳	兼任
		運動器障害理学療法学実習	15	松永 秀俊	教授・専任
		スポーツ障害理学療法学実習	15	河西 紀秀	兼任
		発達障害理学療法学実習	15	林 勝彦	教授・専任
		中枢神経障害理学療法学実習	15	小池 有美	兼任
		神経筋疾患理学療法学実習	15	福井 直樹	助教・専任
		内部障害理学療法学実習	30	禹 炫在	助教・専任
		系統別・治療手技演習	30	松永 秀俊	教授・専任
		日常生活活動学	30	鍵井 一浩	教授・専任
		日常生活活動学実習	15	石橋 誠隆	兼任
		生活環境学実習	15	石橋 誠隆	兼任
		障害者スポーツ演習	30	森本 信三/小西 暢子	兼任
		応用物理療法学演習	15	福井 直樹	助教・専任
		専門手技療法学演習	15	浅見 岳志	兼任

		高次脳機能障害の治療法	15	湯川 喜裕	講師・専任
		認知症の理解とその支援	15	大松 慶子	准教授・専任
		レクリエーション活動演習	15	巽 絵理	教授・専任
	地域 理学療法学	地域理学療法学Ⅰ	15	鍵井 一浩	教授・専任
		地域理学療法学Ⅱ	15	鍵井 一浩	教授・専任
		地域理学療法学実習	30	鍵井 一浩/馬 炫在	教授・専任/助教・専任
	臨床実習	理学療法見学実習	15	理学療法学専攻教員全員	教授・講師・助教・専任
		理学療法体験実習	30	理学療法学専攻教員全員	教授・講師・助教・専任
		理学療法評価実習	60	理学療法学専攻教員全員	教授・講師・助教・専任
		理学療法総合臨床実習	240	理学療法学専攻教員全員	教授・講師・助教・専任
展 開 科 目	必修展開科目	ふるさと・紀州学	15	古久保規夫、恩田雅和	兼任
		地域健康支援の現状と課題	15	松井 有史/ 長辻 永喜	講師・専任/教授・専任
		組織論	15	大泉 英次	教授・専任
		地域活性企業論	15	大泉 英次	教授・専任
		リーダーシップ論	15	長辻 永喜	教授・専任
	選択展開科目	経営と会計	15	大泉 英次	教授・専任
		医療経済論	15	大泉 英次	教授・専任
		地域防災論	15	松井 有史/西川一弘	講師・専任/兼任
		支援ロボット論	15	中嶋 秀朗	兼任
		産業保健論	15	巽 絵理/宮本 愛/恩地 文香/藤井 由香/ 中本 夕貴/岡田 夏季	教授・専任/兼任
		地方自治と生活	15	和田 隆夫	兼任
		生涯スポーツ論	15	新宅 幸恵	教授・専任
		ソーシャルスキル論	15	赤井 由賀里/吉崎 邦夫	兼任/教授・専任
		医用・福祉工学論	15	鈴木 新	兼任
		発達障害児・者の現状と課題	15	西尾 恵	准教授・専任
		地域連携研究	15	宋 謙	兼任
		アンチエイジング	15	高橋 華奈子	兼任
総 合 科 目	理学療法総合科目	専門職連携総合演習A	15	吉崎 邦夫/大松 慶子/松永 秀俊	教授・准教授・専任
		専門職連携総合演習B	15	長辻 永喜/松井 有史/湯川 喜裕/福井 直樹	教授・准教授・講師・助教・専任
		専門職連携総合演習C	15	巽 絵理/鍵井 一浩	教授・専任
		応用理学療法演習Ⅰ	15	松井 有史/馬 炫在/石橋 誠隆	講師・助教・専任/兼任
		応用理学療法演習Ⅱ	15	松井 有史/福井 直樹/馬 炫在	講師・助教・専任
		理学療法総合演習	30	吉崎 邦夫/松永 秀俊/鍵井 一浩/ 松井 有史/福井 直樹/馬 炫在	教授・講師・助教・専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

自己評価	評価内容	判定
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
------	------	----

○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法見学実習 対象者に評価・治療を行うのではなく、対象者や施設・医療スタッフに対して適切な態度で接すること、診療チームの一員としての理学療法士の役割について学ぶ。	1年前期	リハビリテーション概論 理学療法概論	1年前期 1年前期
理学療法体験実習【前半】 地域包括支援システム（特に訪問または通所リハビリテーション）における理学療法士の役割を理解し、その対象となる利用者に対する理学療法を見学または一部を経験することで生活期の理学療法について理解する。	2年後期	医療関連法規 理学療法評価学総論Ⅰ 理学療法評価学総論Ⅱ 地域理学療法学Ⅰ	1年後期 1年後期 2年前期 2年前期
理学療法体験実習【後半】 理学療法の検査・測定、評価、治療の実践を見学またはその一部を体験することにより、理学療法士の役割と責任について理解を深める。	2年後期	身体機能評価学実習Ⅰ 身体機能評価学実習Ⅱ 理学療法評価学実習Ⅰ 理学療法評価学実習Ⅱ 日常生活活動学	1年後期 1年後期 2年後期 2年後期 2年後期
理学療法評価実習 学内で学んだ各種理学療法評価とその考え方をベースにし、理学療法における臨床思考過程を学ぶこととする。特に、理学療法評価後の目標設定や治療プログラムの立案にあたっては臨床実習指導者の思考過程を具体的に提示してもらうなかで理解を進める。	3年前期	運動療法学 物理療法学実習 義肢装具学Ⅰ 理学療法臨床診断学 運動療法学実習Ⅰ 運動療法学実習Ⅱ 日常生活活動学実習 地域理学療法学Ⅱ	2年後期 3年前期 3年前期 3年前期 3年前期 3年前期 3年前期 3年後期
理学療法総合臨床実習 理学療法の一連のプロセスを踏まえた臨床思考過程と実践方法を学び、身につける。 一般的な特性を呈する対象者に対して、医療人として望ましい態度で、理学療法実践過程（初期評価、計画立案）を臨床実習教育者の監督の下に遂行できる。また、理学療法学生として自覚をもった行動をとることができる。	4年前期	義肢装具学Ⅱ 神経筋疾患理学療法学実習 内部障害理学療法学実習 専門手技療法学演習 理学療法管理学 臨床理学療法学 運動器障害理学療法学実習 発達障害理学療法学実習 中枢神経障害理学療法学実習 地域理学療法学実習 応用理学療法演習Ⅰ 系統別・治療手技演習 応用物理療法学演習 高次脳機能障害の治療法 認知症の理解とその支援 レクリエーション活動演習 応用理学療法演習Ⅱ	3年前期 3年前期 3年前期 3年前期 3年後期 3年後期 3年後期 3年後期 3年後期 3年後期 3年後期 3年後期 3年後期 3年後期 3年後期 3年後期 3年後期

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2

	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1
--	---------------------------	---

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
☐	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	学長 寺下 敏雄
組織の開催頻度	1年に1回
組織の取り組み内容	・ 学生による授業評価の分析 本学の教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育研究活動及び管理運営を自ら点検し、評価する。 具体的には、各種委員会や学内各部署が推進する中期計画及びアクションプランの進捗状況に関する中間及び期末における点検・評価を実施している ・ 学生による授業評価アンケートの分析結果の確認
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： https://wakayama.kyowa.ac.jp ） 自己点検・評価活動の内容を1年に1回、自己点検評価書を自主的に作成して大学ホームページで学内外に公表している。2024年度に当該年度の自己点検・評価活動を対象とする自己点検評価書を作成して公表した。また、各教員の研究業績に関しては、大学ホームページに掲載している

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
☐	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	教務委員会
	委員構成等	教務委員長・教務委員
	改善の仕組みの実際	シラバス作成マニュアルを全教員に配布して記載内容について各教員が改善に努めている。更に次年度のシラバス内容を学科長と教務委員長が点検し、必要に応じて改善（修正）している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価委員会は、本学の教育研究活動及び管理運営を自ら点検・評価している。 点検・評価の結果は、学科長および各担当部門で周知され、必要に応じて対策が検討されている。また、学部の点検・評価の結果は、全学の自己点検・評価委員会にも報告され、大学全体で問題点を共有した後、必要に応じてシステムの見直しを検討されている。 2024年度に一般社団法人リハビリテーション教育評価機構による教育評価を受審。この評価結果は大学ホームページにて公表する。
